

## 令和4年度 国語科 「現代文B」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 2年A～G組
教科書	精選現代文B（教育出版）	副教材等	大学入試に出た核心漢字2500+語彙1000(尚文出版)、[改訂版]現代文キーワード読解(Z会編集部)、プレミアムカラー国語便覧(数研出版)、錬成現代文(尚文出版)

## 1 学習の到達目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を育てる。

## 2 学習の計画

月	単 元 名	学習項目	主な学習内容や学習活動	主な評価の材料
4	構成・展開・要旨を的確に捉える	【評論一】 ・「ミロのヴィーナス」(清岡卓行)	・「ミロのヴィーナス」を読むことで、普遍的美と限定的な美との違いを理解し、併せて随想的な評論の読み方に習熟する。	・筆者の修辞の特色を捉え、逆説的な論理を理解している。(行動の分析)
5		・「日本の庭について」(山本健吉)	・日本の芸術観について、文脈にそってまとめ、日本と外国の芸術作品の違いを批評する。	・論理構成を正しくつかみ、日本文化の取り上げられ方に関心を持っている。(行動の観察)
6	人物・情景・心情の描写を的確に捉える	【小説一】 ・「山月記」(中島敦)	・「人虎伝」との比較を通して、李徴が虎になるということにどのような寓意が込められているかを考える。	・人間の自己意識の在り方に関する考察を深めようとしている。(行動の観察)
7				・『人虎伝』と比較してこの作品の主題を捉え、批評文に反映している。(記述の分析)
8	人間存在や言語について深く考える	【小説二】 ・「こころ」(夏目漱石) 上巻、中巻 など	・「こころ」の読解を課題研究学習などを通じて行うことで、自ら学ぶ力や、話す、聞く能力を充実させ、人間存在や言語についての考察を深める。	・「こころ」全編を読み、作品の語りや人物描写などの表現上の工夫について理解しようとしている。(行動の観察)
9				

月	単 元 名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料
10	人間存在や言語について深く考える	【小説二】 ・「こころ」(夏目漱石) 下巻など	・「こころ」の読解を課題研究学習などを通じて行うことで、自ら学ぶ力や、話す、聞く能力を充実させ、人間存在や言語についての考察を深める。 ・物語の全体と掲載箇所との関係性を考えさせ、漱石の文体・描写を味わう。	・教材を読み深めて充実した発表を行い、他者の意見を聞き自分の考えをさらに深めようとする姿勢が身についている。(行動の観察) ・発表に対して疑問を呈したり、自分の意見を述べる姿勢が身についている。(行動の観察)
11	社会との関係について自分の考えを深める	【評論二】 ・「方法としての異世界」(見田宗介)	・「現代社会の〈自明性の檻〉」の外部に出てみる」という筆者の言葉から、現代日本の抱える問題を考える。	・現代社会の内部には気づくことのできない問題点に気づき、筆者の提言を理解している。(行動の分析)
12	社会における「自己」のあり方についての考え方を深める。	【評論三】 ・衣服という言葉(小野原教子)	・社会的な「記号」としての衣服が象徴する意味を理解し、衣服とアイデンティティーとの関わり方について考える。	・筆者の主張を的確に読み取った上で、自己のアイデンティティーの形成過程における他者との関わりについて自分の考えに表すことができる。(記述の確認)
1	現代に通じる普遍的な課題について考える	【評論五】 ・「『である』ことと『する』こと」(丸山真男)	・「『である』ことと『する』こと」を読むことで、日本の近代における「『である』論理」と「『する』論理」がどう作用しているか理解する。	・筆者の主張を正確に読み取り、論理の問題としてでなく、現実の事象にあてはめて理解したうえで、自分の考えを的確に表現している。(行動の分析)
2	自然や社会との多様な関係性について考える	【随想】 ・「互酬性の地平」(今福龍太)	・筆者の意図を的確に捉え、自然や社会との多様な関係性について考えを深める。	・自然との関係性について興味をもち、自分の考えを深めようとしている。(行動の観察)
3				

### 3 評価の観点

関心・意欲・態度	国語で伝える力、言語文化に対する関心を深め、それを尊重し向上を図ろうとする。
話す・聞く能力	目的や場に応じて話し聞き取り、話し合い、自分の考えをまとめ、深めている。
書く能力	場合に応じた適切な表現にによる文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。
読む能力	文章を的確に幅広く読読み取り、自分の考えを深め、発展させている。
知識・理解	伝統的な言語文化の特徴や決まりなどについて理解し、知識を身につけている。

### 4 評価の方法

「関心、意欲、態度」、「話す、聞く能力」、「書く能力」、「読む能力」、「知識、理解」の5観点から評価規準に従い、小テストや定期考査の結果、提出物の在り方、授業中の姿勢などを鑑み、総合的に評価する。
--

### 5 担当者からのメッセージ (確かな学力をつけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守ってほしい事項など)

基礎的知識を定着させるため、やるべきことはしっかりこなすというのは言うまでもありませんが、それ以上に、授業に入る以前に必要な予習を行い、自分なりの課題を持ち、主体的に授業へ参加できるようにしておいてください。教えてもらうのではなく、学ぶという姿勢を持ってください。
--